

CASBEE-広島（2010年ver.1）
介護老人福祉施設サンヒルズ広島

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート			実施設計段階								
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
						評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										3.1	
Q1 室内環境							0.40			3.2	
1 音環境						2.6	0.15	2.4	1.00	2.5	
1.1 騒音			共用部と居室の界壁はグラスウール充填し遮音性を高めた			3.0	0.40	3.0	0.40		
1 暗騒音レベル		3.0				1.00	3.0	1.00			
設備騒音対策						-		-			
1.2 遮音						2.0	0.40	2.6	0.40		
1 開口部遮音性能		2.0				0.40	2.0	0.30			
2 界壁遮音性能		2.0				0.60	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	3.0	0.20			
1.3 吸音						3.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境						2.6	0.35	2.6	1.00	2.6	
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.0	0.50		
1 室温設定		3.0				0.38	3.0	0.57			
気密・断熱性能の向上						-		-			
3 外皮性能		3.0				0.25	3.0	0.43			
4 ゾーン別制御性		3.0				0.38		-			
日射・日食制御						-		-			
個別制御						-		-			
設備の空調に対する配慮						-		-			
監視・調整						-		-			
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境						3.1	0.25	4.1	1.00	3.4	
3.1 屋光利用			余裕のある採光計画とした			2.4	0.30	4.2	0.30		
1 屋光率		2.0				0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口						-		-			
3 屋光利用設備		3.0				0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策			庇とブラインドにてグレアを抑制する			4.0	0.30	4.0	0.30		
眩しさを軽減する						-		-			
2 屋光制御		4.0				1.00	4.0	1.00			
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15		
1 照度		3.0	1.00	3.0	1.00		-		-		
3.4 照明制御			ベッド単位の細かな照明制御ができる			3.0	0.25	5.0	0.25		
4 空気質環境						4.4	0.25	4.5	1.00	4.4	
4.1 発生源対策			ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用			5.0	0.50	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		5.0				1.00	5.0	1.00			
ホルムアルデヒド対策						-		-			
臭気対策						-		-			
4.2 換気			余裕を見た開口計画とした			3.0	0.30	3.6	0.38		
1 換気量		3.0				0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能						-	5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0				0.50	3.0	0.33			
給気設備			-		-		-		-		
4.3 運用管理			全館禁煙を実施			5.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視						-		-			
2 喫煙の制御		5.0				1.00		-			
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.1	
1 機能性						3.0	0.40	4.2	1.00	3.3	
1.1 機能性・使いやすさ			各個室をゆとりのある面積で計画した			3.0	0.60	5.0	0.60		
1 広さ・収納性						-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応						-		-			
3 バリアフリー計画		3.0				1.00		-			
1.2 心理性・快適性						3.0	0.40	3.0	0.40		
1 広さ感・景観						-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース						-		-			
3 内装計画		3.0				1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理							-		-		
1 維持管理に配慮した設計			-		-						
2 維持管理用機能の確保			-		-						
2 耐用性・信頼性						3.0	0.31		-	3.0	
2.1 耐震・免震						3.0	0.48		-		
1 耐震性		3.0				0.80		-			
2 免震・制振性能		3.0				0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.33		-		
1 躯体材料の耐用年数		3.0				0.23		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0				0.23		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0				0.09		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0				0.08		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0				0.15		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0				0.23		-			

	2.3 設備の更新				-		-	
	2.4 信頼性			3.4	0.19		-	
	1	空調・換気設備	非常用電源を設ける	3.0	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
	3	電気設備		4.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備		4.0	0.20		-	
	3 対応性・更新性			3.0	0.29	3.0	1.00	3.0
	3.1 空間のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
	1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.38		-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
	6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		適切な緑地を確保する		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30		-	3.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	適切な緑地を確保する	4.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制				3.0	0.30		-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20		-	3.0
	2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
	2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		ERR=31.9		5.0	0.30		-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20		-	3.0
	4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護				3.0	0.15		-	3.0
	1.1	節水		3.0	0.40		-	
	1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60		-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
	2	雑排水再利システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.5	0.63		-	3.5
	2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	・高炉セメントB種 ・再生クラッシュラン ・ビニル床シート	5.0	0.20		-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05		-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	可動間仕切りを採用	4.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22		-	3.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32		-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68		-	
	1	消火剤	ハロン消火剤を一切使用しない	4.0	0.33		-	
	2	断熱材		2.0	0.33		-	
	3	冷媒		3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が参照値に対して74%とする。		5.0	0.33		-	5.0
2 地域環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
	2.1	大気汚染防止		3.0	0.25		-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	適切な緑地の確保、良好な風通しを確保	3.0	0.50		-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25		-	
	1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
	3	交通負荷抑制	適切な駐車スペースの確保、送迎バスの実施	4.0	0.33		-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮				2.8	0.33		-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
	1	騒音		3.0	1.00		-	
	2	振動		-	-		-	
	3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、日照阻害の抑制				2.3	0.40		-	
	1	風害の抑制		2.0	0.70		-	
	2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20		-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	適切な照明計画とし、周辺にも配慮した、広告物照明なし	4.0	0.70		-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	